

対比 8000万円の削減

万円決まる

ました。慎重に審議した結果、予算を可決しました。



循環センター2期事業予定地周辺

歳 出

科 目	予算額	前年対比
民 生 費	14億4600万1千円	12.6%
総 務 費	5億5615万8千円	12.8%
教 育 費	5億1821万 円	△3.4%
衛 生 費	4億3696万5千円	△26.8%
農林水産業費	4億1768万9千円	8.6%
借入金償還額	2億6902万4千円	△39.8%
土 木 費	1億8800万7千円	7.9%
そ の 他	3億3594万6千円	1.4%
合 計	41億6800万 円	△1.9%

(注) △はマイナス

ポ イ ン ト

- ①人件費 430万円減
- ②公債費は償還完了や高金利借入金の繰上償還の前年度実施により1億7812万円の減
- ③上水道の水資源開発広域化事業負担金や塵芥処理費が大幅に減
- ④国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療会計への繰出金の増
- ⑤電算機器のリプレース関係費用9735万3千円
- ⑥木佐木学童保育所増築工事450万円
- ⑦ごみ減量化対策交付金317万円
- ⑧循環センター2期事業実施設計委託料1100万円
- ⑨図書文化等施設整備事業1292万円
- ⑩平成19、20年度継続事業
大木中学校大規模改修工事1億6792万円



第1予算審査特別委員会 (総務常任委員会)

審査報告(概要)

委員長 田中 和美
副委員長 松枝 恒男
委員 中島 征行
井上 護

■一般財源も19年度に比べ、4750万円の減額となり、財政状況は依然として厳しく、特に減債基金の取り崩しが著しく、慎重なる行政運営を求める。

■緊縮財政のなか補助金等の削減等、積極的に取り組んでいる。また今後の報酬、負担金補助、交付金、消耗品、管理委託料など、更なる行政改革の推進を強く求める。

■町内では企業の倒産もあり、税徴収対策の充実が重要である。また水道料や給食費等を含めたところでの未納者への徴収対策は、各担当者間で十分連絡調整を行われない。

■電算機器システムのリプレースの業者選定及び機器等の選定は、十分に慎重検討され、電算機器による一層の情報共有化・効率化の推進を図り、コストの削減に努められたい。

■道路特定財源諸税の暫定税率が廃止された場合には、歳出の見直し等の検討を要請する。

第2予算審査特別委員会 (文教厚生常任委員会)

審査報告(概要)

委員長 牟田口美智子
副委員長 中島 和正
委員 西田 勉
眞崎 萬次
徳永 豊

■乳幼児医療対策費、重度身心医療対策費、母子家庭等医療対策費の医療費支給額は微増の傾向にあり、疾病の早期発見及び保健管理の